



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三五八号〕

りっとう
立冬

十一月七日

黄色い招き猫

内宮前のおかげ横丁からも、黄色く色づいた神宮工作所のイチヨウ並木が望めます。暦は、立冬を迎えました。冬と聞くと、気持ちが引き締まるように思うのは、厳しい寒さがやってくるのと、この一年の終りを意識するからでしょうか。

黄色といえば、先日、おかげ横丁の「来る福招き猫まつり」でもたくさん黄色い招き猫を見ました。今年のテーマが、「幸せの黄色い招き猫」であったからです。なんでも、黄色の招き猫は、人と人を結ぶ、良縁を招くといわれているのだとか。黄色というと、黄金や大判・小判など、金運を連想していたのですが、黄色い招き猫を見ると、元気が出てきて、ほんわかと温かいものを感じました。黄色は光り輝く太陽の色でもありました。

また、作者の発想力を感じさせる作品も多くありました。細山田匡宏さんの「無題」は、溶ける黄色い招き猫を舐めて、黄色く染まっていく白猫の姿を立体造形にしていました。溶ける招き猫も初めて見ましたし、それを舐めて、また尻尾の方から少しずつ黄色く染まっていくという物語性の高さに驚きました。「来る福招き猫まつり」も第二十七回を迎え、このような新しい発想の作品が出てくるようになったのです。

このほかにも、黄色い寅型のトラックに招き猫や鯛など縁起物を積んだ立体作品、宝船ならぬ伊勢エビの船に乗る七福神に扮装した招き猫が描かれた絵など、見応えがありました。コロナ禍でも招き猫まつりを継続してきたからこそ生まれた作品群だと思いました。

「来る福招き猫まつり」は終わりましたが、おかげ横丁では、じつにさまざまな招き猫と出会うことができます。各店舗で手招きする看板猫を見つけてみてはいかがでしょうかでしょう。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『伊勢の匠展～伝統の伊勢みやげ～』

お伊勢参りは、古くから庶民のあこがれでした。

全国から旅してきた人々は神宮参拝を終えると、伊勢の地で故郷へのお土産、すなわち伊勢に来た証をもって帰りました。

伊勢には、伊勢路の歴史の中で育まれ、普段の暮らしに溶け込んだ伝統工芸が多く残っています。素朴かつ、精巧な伊勢の伝統工芸・工芸品の数々が一堂に集まるこの機会に、できるまでの過程や職人の手仕事に注目して、生み出される作品の素晴らしさをご覧ください。

と き／11月3日(水・祝)～11月14日(日) 10:00～17:00

場 所／【販売・展示】伊勢路名産味の館2階「大黒ホール」

【体験教室】かみしばい広場横「特設会場」

※雨天および諸事情にて、中止または内容が一部変更になる場合がございます。

出展予定／

伊勢根付(中川忠峰)、伊勢一刀彫(岸川行輝)、伊勢玩具(畑井商店)、
伊勢春慶(伊勢春慶の会)、伊勢和紙(大豊和紙工業株式会社)、
伊勢提灯(岩田提灯店)、伊勢型紙(株式会社大杉型紙工業)、
伊勢木綿(臼井織布株式会社)、伊勢擬革紙(擬革紙の会)、
伊賀くみひも(くみひも平井)、伊賀焼(小島憲二、陽介)、
市木もめん(向井ふとん店)、さるはじき(時計屋なかの)、
木漆工(野嶋峰男)、神殿(株式会社宮忠)、竹笛(伊勢特産玩具製作所)、
那智黒石(那智黒石協同組合)、和釘(久住商店)、
松阪もめん(ゆうづる会) 他

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

五十鈴塾

○『観音巡礼の魅力～もう一つのお伊勢参りを巡ってみよう～』

千種先生の伊勢西国三十三所観音巡礼も半分ほどきました。

そこで今回は観音巡礼の仕掛人の一人、伊勢松尾観音の木造住職とお二人で、観音様のことをじっくりと語っていただく機会を設けました。

そもそも観音様とはどのような仏様なのでしょう。

ものの本によりますと観音の総本家ともいべき聖観音、十種の誓願をもつ十一面観音、千本の手にそれぞれひとつずつ眼がある千手観音はよくご存じですね。

他に如意輪観音、不空羅索(ふくうけんじゃく)観音、馬頭観音などがいらっしゃいます。

では観音巡礼をするとういう御利益があるのか、またほかの巡礼とどこが違うのか興味が尽きませんね。

と き／11月15日(月) 13:30～15:00

講 師／木造 隆誠(龍池山松尾観音寺住職)、千種 清美(文筆家・皇學館大学非常勤講師)

参加費／一般 1,800円 会員 1,300円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『節気菓子』

くり

栗かのこ

晩秋から初冬へと季節は移ろい、伊勢路の空に浮かぶのは明るく美しい月の姿です。大納言小豆に栗を置き、澄んだ秋の夜を表現しました。

もち

うずら餅

冬の足音が近づくと、野性の鶉が伊勢の里に姿を見せます。愛らしい鶉の姿を、栗と粒餡を求肥で包み仕上げました。

こう

紅

よう

葉

神路・島路の山々にも紅葉の時期が訪れ山のふところには、所々に鮮やかな赤みが見られます。二色のきんとんでその秋を彩りました。